



気づき

ママになり8年が過ぎた。あつという間だったが、さまざまな出来事があった。人それぞれだと思うけれど、子育ては楽しいときばかりでは



那賀川町 藤岡 幸子さん

いいのかわからない」と辛うに泣き、心の底の叫びを聞いたとき、子どもも苦しんでいるんだ、助けてあげなければ、親が変わらなければと思つた。小さな子どもから身をもって大きなことを教えられた気がした。母の愚かさを。わが子には本当に感謝している。毎晩寝顔を見ては、本当に幸せな道を歩んでほしいとただただ願うばかり。

昨年12月に三男を出産し、3人の子育てに励む毎日。夫の積極的な協力もあり、今までは違

大きくなり勝手に成長すると思ひ込んでいた時期があつた。できなければイライラし、教えることよりも叱る始末。子育てに悩み始めると、自分だけが辛い、この先どうなっていくのか、母親の資格がないとまで思つてしまう。自分のことしか見えてなかったのだ。ある日、子どもと口論になり、子どもが「自分もどうすれば

う心の余裕を感じている。子どもがどう進むかは親次第。長いようで短いであろう子育てを、悔いのないように1日1日を楽しみたい。子どもを抱きしめられるのは、ほんの数年しかないのだから。

次は、羽ノ浦町の平 圭介さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市春季短歌大会選

入選

逝きし友の紫煙ゆらぎし遺影には病苦を解かれやさしき眼
横山みつ枝

入選

鶯の銜を返す木芽道遠足の児等囀りて行く
神原 常経

佳作

夫逝きて四九日も終へた今淋しさ隠しそつと紅ひく
渡辺 良子

佳作

少女期の垣根に立ちて諳んじた「故郷の空」のいま芽え返り
西崎まき子

佳作

歓声のわき上がるさまに黒き土持ちあげ芋の芽立ち幼し
兼任ゆき子

佳作

吾が余生今日が最も若い日と髪なでつけて割烹着する
久積多美子

佳作

□マスへ「お」か「う」を入れよ白墨を手に春分の鬼のかくらん
阿南市俳句連合会選

俳句

阿南市俳句連合会選

河野千枝子

店内にミニ笹飾り喫茶店

梅雨籠り「さて」と机上へ目を移す
撫養 浪路

番外寺紫陽花ロード咲き誇る
田中 千香

遙かなる伊島の沖の雲の峰
数藤 君子

子等孫と声の弾むや小鯨釣り
高尾 房枝

一揆塚川面に触れる梅雨の蝶
中野 郁

緑蔭や鳥居の上ののる小石
大西 裕子

日盛りに携帯鳴りて訃の知らせ
清原 栄子

点呼して山に一礼山開き
岡本 隆子

長雨や皮の裂けたるミニトマト
山川 喜美

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

豪快に腰の瓢箪右左
多田紀久代

粉飾もある家計簿は許される
原 公美子

聞き役になって心の底を知る
野村 敏子

抵抗も想定内と広い胸
持木 寿栄

悲しみの声を重機が消して行く
野口 吾朗